

大会宣言

私たちは6月19日、名古屋市金山のワークプラザ「れある」において第26回定期大会を開催し、向こう一年間の闘う方針を確立した。また今大会は、結成から20年目の記念大会であり、20年の歩みをふり返り、気持ちを新たに闘いを展開することを全体で確認した。

3月11日に発生した東日本大震災は、多くの尊い命と家屋などの財産、そしてかけがえのない思い出の品々を一瞬にして奪い去った。さらに、東京電力福島第一原発事故は、被災した人々を不幸に陥れたばかりか、地球的規模の環境破壊をもたらしている。巨大地震・大津波という自然の驚異に対して、人間の弱さを痛感すると同時に、自然に対する謙虚さを忘れてはならぬことを心に刻み、被災者支援と脱原発の取り組みを強力に展開していく。

昨年7月7日、最高裁第三小法廷は、不当にも蒲郡駅事件の上告棄却を決定した。この上告棄却で裁判上は敗北を余儀なく突きつけられたが、加藤誠二さんの完全無罪・職場復帰に向けた3年間の闘いの過程で、組織は一回りも二回りも強化された。組織の弱体化を狙った会社と権力が一体となった攻撃に対する私たちの回答は、「たしろかおる」の当選であり、組織拡大である。一切の弾圧を跳ね返す強靱な組織の構築を目指し奮闘しようではないか。

リニア中央新幹線構想は、5月12日に国土交通省交通政策審議会中央新幹線小委員会が最終答申を発表した。その内容は、「大地震でバイパス機能を持つリニア中央新幹線の重要性がさらに高まった」として建設を決定したもので、これを受けて5月27日には、大畠国土交通相がJR東海に対してリニア中央新幹線の建設を指示した。これにより、リニア中央新幹線建設に反対するための闘いは新たな段階を迎えたと言える。私たちはこの一年間、多くの市民と連帯してシンポジウムや学習会を圧倒的に成功させてきた。私たちは、さらに連帯を強化しリニア中央新幹線建設に反対するための闘いを推し広げなければならない。職場で働く労働者と地域で奮闘する仲間たちががっちりスクラムを組んで、強引・傲慢な経営陣と闘おうではないか。

2月2日、新幹線関西地本で組織拡大が結実した。職場からの闘いなくして組織拡大はあり得ない。御用組合では職場で発生する様々な諸問題は解決しない。私たちが、職場にしっかり根を張り実践する以外に現状を変える道はないのである。全ての闘いを組織拡大に結実させるために奮闘しようではないか。

5月18日、参議院本会議において、民主、自民、公明党などの賛成多数で憲法審査会規定案が可決・制定された。これは国民投票を行う地ならしを意味するもので、憲法9条の改悪にまた一步近づいたことに危機感を持たなければならない。

反弾圧の闘い、リニア中央新幹線建設反対のための闘いはもとより、「命令と服従」「規律と忠誠心」の労務管理に抗する闘い、真の安全確立のための闘い、そして平和を守る闘いなど、私たちに課せられた課題は山積している。立ちほだかる困難と苦渋が大きいほど労働組合の真価が問われる。私たちは、20年の闘いで培った運動をさらに発展させ、労働者の未来をこの手で切り拓こう！

以上、宣言する。

2011年6月19日
JR東海労働組合
第26回定期大会